

## 検出されず 放射能 ヨウ素・セシウム



2013年12月7日

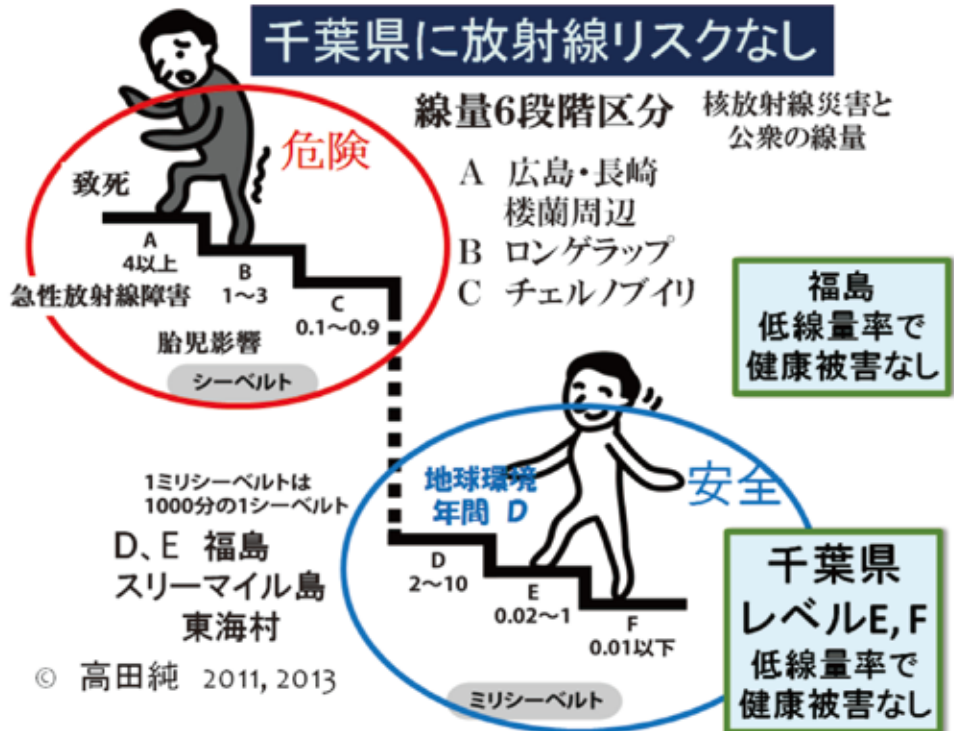


森田健作知事と高田純 2013年9月

千葉県のセシウム焼却灰一時保管施設のある地元印西市発作の下青年館にて、乳児、幼児、児童生徒の希望者11人の体内放射能・ヨウ素・セシウムを検査しました。値は検出限界以下で、全員が、線量0.01ミリシーベルト以下のレベルFと全く安全で、心配ない結果でした。

印西市での現地検査と千葉県が報告し公開している放射線監視データを総合し評価しました。  
千葉県民の年間線量レベルは、震災元年がレベルE、3年目はレベルFと、全くの安全範囲にありました。

- 放射線とは物質が放射するエネルギーです。全ての物質が放射しています。太陽は巨大な核反応炉で、地球に届く十分なエネルギーで生命が宿っています。
- ほとんど全ての物質にはカリウムなどの放射能が含まれています。キログラムあたり、人体67ベクレル、納豆200ベクレル、乾燥昆布1600ベクレル。



高田純(たかだ じゅん) 理学博士  
広島大学大学院博士課程(理学研究科物理学専攻)後期中退、シカゴ大学ジェームスフランク研究所、広島大学原爆放射線医学研究所などを経て、平成16年より、札幌医科大学教授。

広島核爆発災害、チェルノブイリ原子炉災害、米ソの核実験場周辺および、シルクロード楼蘭周辺での核爆発災害など、現地調査を中心に世界の核災害を研究。アパグループ・藤誠志賞など受賞。主著に「世界の放射線被曝地調査」講談社、「中国の核実験」、「福島 嘘と真実」医療科学社など。